

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

被告人の上告趣意について。

論旨は量刑不当の主張であつて適法な上告理由とならない。

弁護人中村稔の上告趣意第一点について。

刑の量定にあつて、被告人が前科により執行猶予中であることを考慮に加えても、憲法三九条に違反しないことは、当

裁判所の判例（昭和二五年（あ）三〇〇三号、同二六年三月一六日第二小法廷判決、昭和二四年（れ）一二六〇号同年一二月二一日

大法廷判決）に徴して明らかである。論旨は理由がない。同第二点について。論旨は量刑不当の主張であつて適法な上告理由とならない。また記録を精査しても刑訴四―一条を適用すべきものとは認められない。よつて同四〇八条一―一条により主文のとおり判決する。この判決は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二九年三月三〇日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	井	上	登
裁判官	島		保
裁判官	河	村	又 介
裁判官	小	林	俊 三
裁判官	本	村	善 太 郎